

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成22年10月28日(2010.10.28)

【公表番号】特表2010-508977(P2010-508977A)

【公表日】平成22年3月25日(2010.3.25)

【年通号数】公開・登録公報2010-012

【出願番号】特願2009-536320(P2009-536320)

【国際特許分類】

A 6 1 L 15/16 (2006.01)

A 6 1 B 19/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 L 15/01

A 6 1 B 19/00 5 0 2

【手続補正書】

【提出日】平成22年9月8日(2010.9.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

生体再吸収性微粒子を具える生体再吸収性ドレッシングを調製する方法であって、当該方法が、

I) ポロジエンシステムを具える実質的にシリンダ形状のケーシングを形成するステップであって、

a) 1又はそれ以上の生体再吸収性ポリマ及びポロジエンシステムを溶媒中に溶解し、混合物を形成するステップ；

b) シリンダ形状の型を前記混合物でコーティングするステップ；及び

c) 前記溶媒を除去するステップ；

によって形成するステップと；

I I) 前記ケーシング内に少なくとも1の生体再吸収性ポリマを具える微粒子を配置するステップと；

I I I) 繰り返し間隔をあいて、前記ケーシングに狭窄部を形成するステップと；を具えることを特徴とする方法。

【請求項2】

請求項1に記載の方法において、前記混合物がさらに可塑剤を含むことを特徴とする方法。

【請求項3】

請求項1に記載の方法がさらに、水中油型エマルション方法を用いて前記微粒子を製造するステップを具えることを特徴とする方法。

【請求項4】

請求項1に記載の方法において、前記微粒子の大きさが約400乃至約600ミクロンの間であることを特徴とする方法。

【請求項5】

請求項1に記載の方法において、前記ポロジエンシステムが炭酸ナトリウム及び酸であることを特徴とする方法。

【請求項6】

請求項 1 に記載の方法において、前記ポロジエンシステムが塩類であることを特徴とする方法。

【請求項 7】

請求項 1 に記載の方法において、前記 1 又はそれ以上の生体再吸収性ポリマが、 P L A : P C L の共重合体であることを特徴とする方法。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の方法において、前記 P L A : P C L の割合が約 9 0 : 1 0 であることを特徴とする方法。

【請求項 9】

請求項 7 に記載の方法において、前記 P L A : P C L の割合が約 8 0 : 2 0 であることを特徴とする方法。

【請求項 10】

請求項 1 に記載の方法がさらに、前記ケーシング内に孔を形成するために前記ポロジエンシステムと流体を反応させるステップを具えることを特徴とする方法。

【請求項 11】

請求項 10 に記載の方法において、前記ケーシング内に前記孔を形成することにより、 7 0 % より大きい前記ケーシングの間隙率となることを特徴とする方法。

【請求項 12】

請求項 10 に記載の方法において、前記孔の直径が、約 1 0 0 乃至約 5 0 0 ミクロンの間であることを特徴とする方法。

【請求項 13】

生体再吸収性ミクロスフェアを具える生体再吸収性ドレッシングを調製する方法であつて、当該方法が：

I) ポロジエンシステムを具えるケーシングを：

a) 1 又はそれ以上の生体再吸収性ポリマ及びポロジエンシステムを溶媒中に溶解し、混合物を形成するステップ；

b) 二元のシートを形成するために前記混合物を非溶媒中へ押し出すステップ；

c) 前記溶媒を除去するステップ；及び

d) 前記シートをシリンドラ形状に巻いて、遠位側の接触端部を接着するステップ；

によって作るステップと：

I I) 少なくとも 1 の生体再吸収性ポリマを含むミクロスフェアを作るステップと；

I I I) ステップ (I I) で作られた前記ミクロスフェアをステップ (I) で作られた前記ケーシング内に配置するステップと；及び

I V) 一定の繰り返し間隔を置いて、前記ケーシングを狭窄するステップと；を具えることを特徴とする方法。

【請求項 14】

請求項 13 に記載の方法において、前記混合物がさらに可塑剤を含むことを特徴とする方法。

【請求項 15】

請求項 13 に記載の方法において、前記ミクロスフェアの直径が約 4 0 0 乃至約 6 0 0 ミクロンの間であることを特徴とする方法。

【請求項 16】

請求項 13 に記載の方法において、前記ポロジエンシステムが炭酸ナトリウム及び酸であることを特徴とする方法。

【請求項 17】

請求項 13 に記載の方法において、前記ポロジエンシステムが塩類であることを特徴とする方法。

【請求項 18】

請求項 13 に記載の方法において、前記 1 又はそれ以上の生体再吸収性ポリマが、 P L A : P C L の割合が約 9 0 : 1 0 乃至約 7 0 : 3 0 の範囲である P L A : P C L の共重合

体であることを特徴とする方法。

【請求項 19】

創傷部位に減圧創傷治療を適用するシステムであって、当該システムが：
多孔質ケーシング及び生体再吸収性微粒子を具える生体再吸収性ドレッシングであって、
当該生体再吸収ドレッシングが前記創傷部位に位置するように構成されているドレッシングと；

前記生体再吸収ドレッシング近傍に配置するように構成されている分配マニホールドと；
創傷部位と、生体再吸収ドレッシングと、分配マニホールドの上に位置するように構成したドレープと；

減圧源と；

前記減圧源と前記分配マニホールド管を流体連通させる減圧供給管と；
を具えることを特徴とするシステム。

【請求項 20】

請求項 19 に記載のシステムにおいて、前記多孔質ケーシングが、1 又はそれ以上の生
体再吸収性ポリマを具えることを特徴とするシステム。

【請求項 21】

請求項 19 に記載のシステムにおいて、前記 1 又はそれ以上の生体再吸収性ポリマが、
P L A : P C L の共重合体であることを特徴とするシステム。

【請求項 22】

請求項 19 に記載のシステムにおいて、前記 1 又はそれ以上の生体再吸収性ポリマが、
前記 P L A : P C L 比が約 90 : 10 乃至約 70 : 30 の範囲の P L A : P C L の共重合
体であることを特徴とするシステム。

【請求項 23】

請求項 22 に記載のシステムにおいて、前記 P L A : P C L の割合が約 90 : 10 であ
ることを特徴とするシステム。

【請求項 24】

請求項 22 に記載のシステムにおいて、前記 P L A : P C L の割合が約 80 : 20 であ
ることを特徴とするシステム。

【請求項 25】

請求項 19 に記載のシステムにおいて、前記多孔質ケーシングが 1 またはそれ以上の生
体再吸収性ポリマと、可塑剤を具えることを特徴とするシステム。

【請求項 26】

請求項 19 に記載のシステムにおいて、前記生体再吸収性ドレッシングが前記創傷部位
に接して配置されていることを特徴とするシステム。

【請求項 27】

請求項 19 に記載のシステムにおいて、前記減圧源が、前記分配マニホールドと前記生
体再吸収性ドレッシングを介して前記創傷部位に減圧を与えることを特徴とするシステム
。

【請求項 28】

請求項 19 に記載のシステムにおいて、前記ミクロスフェアのサイズが約 400 乃至約
600 ミクロンの間であることを特徴とするシステム。

【請求項 29】

請求項 19 に記載のシステムにおいて、前記多孔質ケーシングが間隔を置いて繰り返し
狭窄部を具えることを特徴とするシステム。

【請求項 30】

請求項 19 に記載のシステムにおいて、前記多孔質ケーシングの孔の直径が、約 100
乃至約 500 ミクロンの間であることを特徴とするシステム。

【手続補正 2】

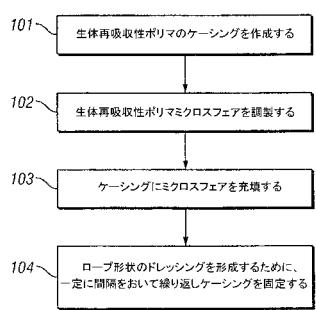
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

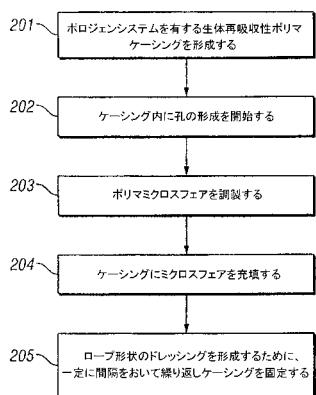
【補正方法】変更

【補正の内容】

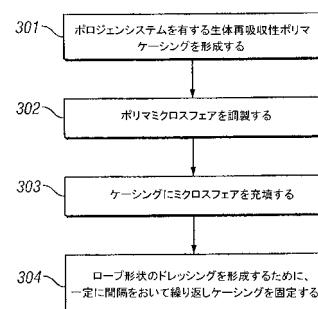
【図 1】



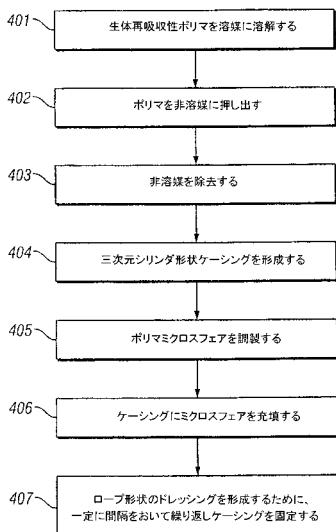
【図 2】



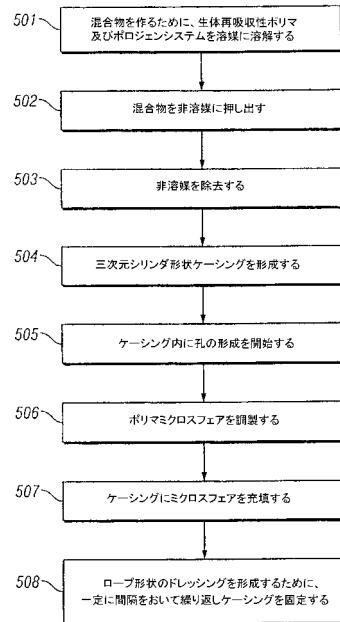
【図 3】



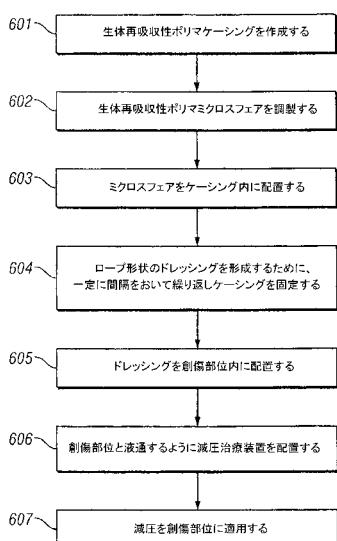
【図4】



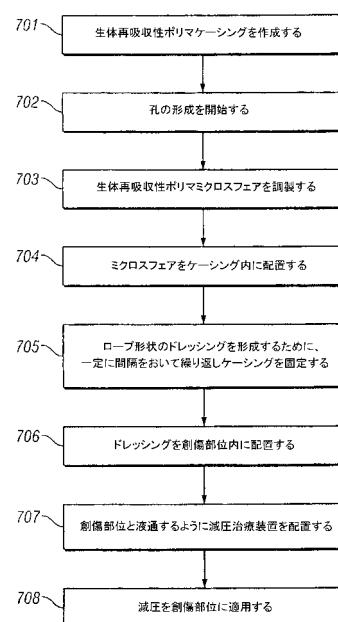
【図5】



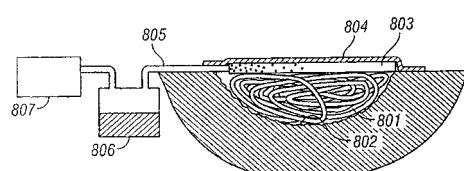
【図6】



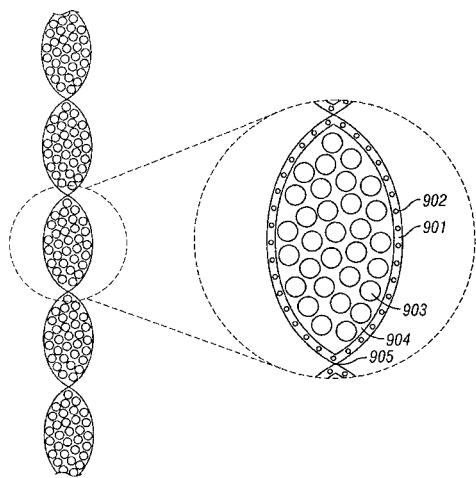
【図7】



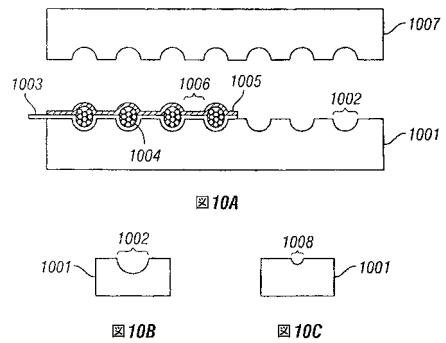
【図8】



【図 9】



【図 10】



【図 11】

